

令和3年 病害虫防除指導情報 第4号

作物名：りんご
病害虫名：腐らん病

県内全域で、腐らん病の発生が目立っています。
枝腐らんは見つけ次第切り取ってください。
胴腐らんは再発病斑も含め、泥巻きなどの処置をしてください。

1 発生状況

- (1) 前年の腐らん病の発生は4月中旬の調査では平年並であったが、4月下旬以降に症状が顕在化し、5月中旬の調査では津軽地域で32%、県南地域で60%の園地で枝腐らんの発生が認められた。
- (2) 本年の4月中旬における枝腐らんの発生は、津軽地域、県南地域とも過去10年間で最も多かった。
- (3) 枝腐らんの症状は果柄感染や果台感染による細い枝での発生が主体であるが、5年生程度の太い枝が枯れ込んでいる症状も散見された。



図1 枝腐らん

2 防除対策

- (1) 枝腐らんは5～6月以降も発病してくるので、随時見回り、見つけ次第切り取る。病原菌は外観上の病斑よりも先まで侵入しているので、被害枝を切り取る際は健全部を5cm以上含める。また、切除後のカルス形成を良好にして枯れ込みを少なくするために、健全な芽（又は枝）のすぐ上で切り取る。切り取った被害枝は伝染源になるので、園内に放置せず速やかに処分する。
- (2) 胴腐らんは、再発病斑を含め、見つけ次第、次のいずれかの処置を行う。
 - (ア) 泥巻きを行う場合は、周辺健全部を含めて、病患部に厚く泥を張り付ける。
 - (イ) バッチレート又はフランカトスプレーを使う場合は、周辺健全部を含めて病患部を紡錘形に削ってから塗る。
 - (ウ) トップジンMオイルペーストを使う場合は、病患部を削り取り、浸透性を高めるために周辺の健全表皮（上下約4～5cm、左右2～3cm）も薄く削ってから塗る。なお、本剤は薬剤耐性の懸念があるので、再発した場合は、ただちに(ア)、(イ)の処置をする。

- (エ) 胴腐らの発病が激しく、回復の見込みのない場合は、病原菌の伝染源になるので積極的に伐採する。伐採した被害枝等は伝染源になるので、園内に放置せず速やかに処分する。
- (3) 摘果後の果柄感染による枝腐らの発生が多い園地では、「6月中旬」にラビライト水和剤500倍を選択する。
- (4) 粗皮感染による胴腐らの発生が多い園地では、「7月半ば」又は「7月末」にトップジンM水和剤1,500倍 又はベンレート水和剤3,000倍も使用する。

殺菌剤の作用機構分類

農薬名	有効成分	FRAC コード	系統名
フランカットスプレー	ポリオキシシンド亜鉛塩	1 9	抗生物質
バッチレート	有機銅	M 0 1	有機銅剤
トップジンMオイルペースト	チオファネートメチル	1	M B C 剤
ラビライト水和剤	チオファネートメチル	1	M B C 剤
	マンネブ	M 0 3	ジチオカーバメート
トップジンM水和剤	チオファネートメチル	1	M B C 剤
ベンレート水和剤	ベノミル	1	M B C 剤

FRAC農業用殺菌剤作用機構分類の最新版は農薬工業会ホームページ
(<https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>)を参照。

★農薬を使用する際には必ず最新の農薬登録情報を確認してください★

農林水産省「農薬登録情報提供システム」
<https://pesticide.maff.go.jp/>
(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報・速報」
http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

《当情報に関する問い合わせ先》

青森県病害虫防除所 〒030-0113 青森市第二問屋町4-11-6
TEL:017-729-1717 FAX:017-729-1900
担当：主任専門員 齋藤彰